Kyulux
Materializing the future of OLEDs



Kyulux Factbook 2025

（2024年12月期）

Kyulux
Materializing the future of OLEDs



1 会社概要

社　　名	株式会社Kyulux
設　　立	2015年3月9日
代　　表	代表取締役社長 安達 淳治
従業員数	91名（連結 2024年12月末時点）
本社所在地	〒819-0388 福岡市西区九大新町4番1号 福岡市産学連携交流センター 2号棟227
本社生産管理棟	〒819-0388 福岡市西区九大新町5番5　いとLab+ 研究開発棟212
米国子会社	Kyulux North America, Inc. （AI-MIシステム拠点） 50 Milk Street, 16th Floor, Boston MA 02109, USA
開発パートナー	九州大学 最先端有機光エレクトロニクス研究センター　（OPERA） 福岡県有機光エレクトロニクス実用化開発センター　（i³-opera） 公益財団法人福岡県産業・科学技術振興財団　（ふくおかIST）

2 事業概要

Kyuluxは、九州大学で開発された有機EL発光技術「TADF(Thermally Activated Delayed Fluorescence)を事業化するために設立された九州大学発のスタートアップ企業です。
Kyuluxはこの技術を基盤にレアメタルフリーで、コストパフォーマンスに優れた高効率・長寿命・高色純度の最先端有機EL発光技術「Hyperfluorescence™」を開発しています。

材料開発を加速させるために、2016年にハーバード大学から独占実施権を得た最先端の人工知能(AI)に独自の機能を加えたマテリアルズインフォマティクス(MI)システム「Kyumatic™」を開発し、材料開発に活用しています。Kyumatic™は、26万回を超える*DFT計算データや分子合成、デバイス評価結果を学習し高精度な特性予測を可能にする画期的なMIプラットフォームです。

本社（いとLabを含む）には717㎡の研究ラボを保有し、国の支援プロジェクトを活用した分析・解析装置を多数導入し、OLED業界のゲームチェンジャーとして、さらなる技術革新を推進しています。

2024年には、日本曹達株式会社と資本業務提携契約を締結し、世界初となるTADFの量産と安定した供給体制の実現に向けてパートナーシップを強固にしています。

**DFT計算(密度汎関数理論, Density Functional Theory): 量子力学を使って分子や材料の性質を予測する計算方法。実験を要さないことから、開発スピードを加速する材料シミュレーション手法として、主に新素材の開発、薬の設計、半導体やOLEDなどの研究で使用される。

3 有機ELシステムバレー　～Kyuluxと開発パートナーの連携～

九州大学周辺を拠点とするKyuluxは、九州大学の最先端有機光エレクトロニクス研究センター「OPERA」や福岡県の有機光エレクトロニクス実用化開発センター「 i³-opera」と連携し、TADFやHyperfluorescence™の実用化を進めています。

世界トップクラスの有機EL基礎研究拠点であるOPERAや、福岡県産業・科学技術振興財団(ふくおかIST)が運営するi³-operaとの共同研究や開発委託を通して、広大なクリーンルームや最先端の真空装置および成膜・分析装置を使用し、有機ELの新規材料開発、およびデバイス評価を低コストで行うことができます。





Kyulux
Materializing the future of OLEDs

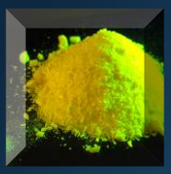
4 量産に向けた取り組み ～ファブレスでの量産化を目指して～

安価で安定した品質の材料を供給していくために、2023年に本社の隣接地に建設された研究・商業・住宅施設のコラボレーションタウン「いとLab⁺」に生産管理拠点を移設・拡張し、量産化に向けたプロセス開発および品質保証体制を強化しています。

直近では、JSTからの助成を受け、5L・20L の反応装置等を導入し、量産に向けてプロセス開発を加速しています。

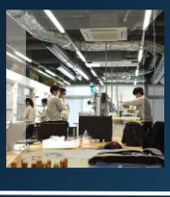
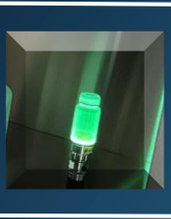
生産管理

原材料の調達や化学物質の適切な管理を行いながら、将来を担っていただく製造委託先との連携構築を進める。


材料品質分析

材料の品質チェックや不良の発生原因の調査を行いながら、将来の量産化時の品質管理体制の構築を進める。


生産開発

評価用サンプルを製造しながら、将来の量産化に向けた製造条件を確立するためのプロセス開発を進める。





品質保証 安全環境管理室

2019年10月 ISO9001:2015を認証登録
適用範囲：事業開発部｜生産管理部｜品質保証室

コンプライアンスを強化し、量産時のクレームや不良解析への対応準備を進める等、顧客満足向上に向けた品質保証体制の構築に取り組んでいます。



CERTIFIED JQA MANAGEMENT SYSTEM ISO 9001

JQA-QMA16115
本社生産管理部・事業開発部
有機EL発光材料の設計・開発

5 有機EL業界のGame Changerを目指して

私たちのミッション

◇ TADF/Hyperfluorescence™で有機ELの未来を創る

私たちのビジョン

◇ KyuluxはHyperfluorescence™の商業化に成功し、世界の材料開発ベンチャーのロールモデルとなります。

◇ Kyuluxはアントレプレナー人材の輩出と新たなスタートアップ群の創成支援により有機光デバイスシステムバレーを構築していきます。

◇ Kyuluxは先端材料によってはじめて実現できる新たな価値とアプリケーションを創造し、世界の人々の豊かな生活の実現に向けて挑戦していきます。



Kyulux
Materializing the future of OLEDs



6 受賞歴

- 2016年　Red Herring Global 100
- 2018年　CEATEC AWARD 2018 デバイス/テクノロジー部門 グランプリ
- 2018年　経済産業省推進　スタートアップ育成支援プログラム「J-Startup」企業に認定
- 2019年　大学発ベンチャー表彰2019　経済産業大臣賞
- 2019年　Japan – U.S. Innovation Awards 2019, Innovation Showcase
- 2021年　ICDT2020「Distinguished Paper Award」
- 2023年　「知財功労賞 経済産業大臣表彰」受賞　他、多数

7 資金調達実績

- 2016年4月　シリーズA　:15.0億円
- 2019年5月　シリーズB　: 34.8億円
- 2021年2月　シリーズB-Prime　: 36.2億円
- 2023年11月　シリーズC　: 42.7億円

ラウンド終了時の為替レートに基づいています

8 戦略＆リード投資家

Samsung Display、LG Display、ソニーグループ、長瀬産業、九州大学、ジャパンディスプレイ（JDI）
QB キャピタル、Celesta Capital、上海浦東科技投資有限公司（PDSTI）、El Camino Capital
MCPアセット・マネジメント、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）、他

9 SDGsへの貢献

KyuluxのHyperfluorescenceは、エネルギー効率の向上と資源消費の削減を通じて持続可能な開発目標（SDGs）の達成に貢献する、人と地球の未来に繋がる発光技術です。

エネルギー効率の向上（SDG 7：エネルギーをみんなに そしてクリーンに）
Hyperfluorescence™は、従来の有機ELと比べて大幅な省エネを実現します。
- 標準的な有機ELディスプレイでの消費電力削減効果は最大33%
- 大型ディスプレイ(例:テレビ)では、発光層を3層から2層に削減することにより、期待される省エネ効果は最大50%

資源の持続可能性（SDG 12：つくる責任 つかう責任）
Hyperfluorescence™は従来のりん光とは異なり、イリジウムやプラチナなどの希少金属を使用しないため、採掘や精錬による環境負荷を軽減し、持続可能な資源利用を促進します。

スマートフォンやテレビ、ウェアラブルデバイス、車載ディスプレイなど幅広い用途に対応するHyperfluorescence™は省エネルギーで資源に優しい未来を切り拓きます。

Kyuluxは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

2025@Kyulux,Inc.